

火山土地条件図「富士山」について Land Condition Map of Fuji Volcano

地理調査部 川島 悟・佐藤宗一郎・岩橋純子・中田外司・杉山正憲
Geographical Department Satoru KAWASHIMA, Soichiro SATO, Junko IWAHASHI Sotoshi
NAKADA, Masanori SUGIYAMA

測図部 小西博美
Topographic Department Hiromi KONISHI

東北地方測量部 市川清次
Tohoku Regional Survey Department Seiji ICHIKAWA

株式会社パスコ 朝比奈利廣
Pasco Corporation Toshihiro ASAHINA

要 旨

火山土地条件図「富士山」は、富士山の観測研究、ハザードマップ作成等の基礎資料に資することを主な目的として作成したものである。作成にあたっては、富士山火山研究の専門家からなる「富士山火山土地条件図作成検討委員会」での検討結果を踏まえ、富士山地質図（津屋, 1968）を参考に空中写真判読、現地調査、文献資料、数値標高データ、航空レーザスキャナによる精密地形測量などの調査・成果を基にした。

本図は、富士山の火山活動がもたらした火山地形の分布を、その周辺に分布する扇状地・台地や富士山より古い火山である小御岳火山、愛鷹火山の地形を含めて、一図葉に収めたものである。本図からは、約10万年間の富士山の火山活動によって形成されてきた地形やその後の侵食作用、堆積作用により形成された地形など、富士山周辺の土地の成り立ちを読み取ることができる。

本稿は、火山土地条件図「富士山」の裏面の解説面を補完するため、作成経緯、富士山固有の地形、富士山の有史以降の活動と災害、精密測量により新たに確認できた地形などを追加して、取りまとめたものである。

1. はじめに

富士山は、約300年前に発生した宝永噴火を最後に、これまで長く静穏な状態にあったが、2000年10月以降に低周波地震が急増し、その後いったん減少したものの2001年4月末に再び多発した。火山噴火予知連絡会において「ただちに噴火等活発な火山活動に結びつくものではない」との見方が示されたが、この一連の活動により富士山が活火山であることがあらためて認識される状況になった。

このような状況を踏まえ、2001年6月に火山学者・行政・自治体の担当者からなる「富士山ハザードマップ作成検討委員会（事務局：内閣府、総務省、国土交通省）」が発足した。また、科学技術・学術審議会測地学分会

火山部会が「当面の富士山の観測研究の強化について」の取りまとめを緊急に行い、2001年6月に報告した。この報告の中で国土地理院は、「富士山の観測研究、ハザードマップ等の基礎資料として、富士山の火山土地条件図の整備を行う。」ことに取り組むことが位置付けられた。

国土地理院は、この位置付けを受けて、2002年度から火山土地条件図「富士山」の作成作業を開始し、2003年3月には1:50,000 火山土地条件図「富士山」（国土地理院技術資料D・1No.415）として、富士山ハザードマップ作成検討委員会などに基礎資料として提供した。

この資料は、主に内閣府の富士山ハザードマップ作成検討委員会などへ早急に情報提供することを目的に作成したもので、火山土地条件図の色表現が未調整であることや裏面の解説も専門的となっていた。また、内容についても最終的な検討がなされていない部分があった。このため、広く一般に提供（刊行）するために、色表現は原色に近い色を採用してメリハリをつけることとした。また、本図の特徴でもある裏面の解説については、火山地形について分かりやすい構成・内容の仕様とし、さらに最終検討を加え2003年11月15日に刊行したものである（図-1, 2）。

2. 火山土地条件図「富士山」の作成にあたって

火山土地条件図「富士山」は、空中写真判読、現地調査、航空レーザスキャナによる精密地形測量などの成果を基に、「富士山火山土地条件図作成検討委員会」での検討結果を踏まえて作成したものである。

現地調査は、空中写真判読により新たに確認された地形、既存資料には表現されているが空中写真では判読できない地形、精密地形測量で得られた陰影画像データの現地確認、作成検討委員会による指摘事項などを現地で確認することを目的に行った。